

第2回ワークショップの振り返り

1. 理念・コンセプト

(1) 全体像

- ・レベルの高い、文化の香り高い事業をするホール。〈C〉
- ・品格あるホール。〈A〉
- ・海外の大物アーティストの公演にたえうるような施設。〈D〉
- ・観客と演じる者が一体となるホール。〈A〉
- ・レベルが高く、企画力・集客力のある施設。〈C〉
- ・仁徳陵が世界遺産になったら世界的な催し物、公演ができるホールが必要。〈D〉
- ・すこし優雅な雰囲気のあるホール。〈A〉
- ・堺は日本にこだわったほうがいい。和を重視し、よそにない特色を出す。〈D〉
- ・鑑賞型の世界や日本を代表するものも呼べる。〈C〉
- ・見栄えよりも装置や使いやすさを重視する。〈B〉

(2) 使われ方

- ・多くの堺市民が芸術・文化に関心をもてる音楽・舞踊などの催し物をするホール。
〈A〉
- ・一般の人も興味がわくような使われ方、事業とする。〈D〉
- ・一般の人も幅広く来るように演歌などにも対応するホール。〈A〉
- ・だれでもが参加できるような使われ方。心がいやされるような何か……。〈D〉
- ・地域で行われている団体の集合場所、発表の場として使いやすい機能がある施設。
〈C〉

(3) ホール利用者

- ・堺市の文化の中心となるような施設で、若者も来るような施設。〈D〉
- ・音楽やその他の芸術にあまり関心のない(若い)人たちが関心を持てるような魅力あるホールとなるよう工夫する。〈A〉
- ・若者が集まってくるような活気あふれるホール。〈A〉

2. 基本的な方向性

(1) 音楽中心のメインホール

- ・音響の良いクラシックに対応するホール。〈A〉
- ・大ホールはクラシック専用とし、音響を重視する。〈D〉
- ・メインホール：800～1,000席くらいの音響の良いホール。〈C〉
- ・毎回大阪に行かなくても堺でオーケストラがきけるようにしたい。〈B〉

- ・演目に中南米音楽、とくにオルケスタ・ティピカ方式のアルゼンチンタンゴを。
＜B＞
- ・メインホールは音楽専用の機能を備えつつ、大型のバレエや演劇にも転用できるように。＜D＞
- ・メインホール：オーケストラの公演が可能な多目的ホールで、1,000席以上
＜A＞
- ・メインホールは1,800席で音楽中心の多目的ホール。中ホールは800席演劇対応ホール。小ホールは300席でピアノの発表会や室内楽などに対応するホール。
＜C＞
- ・クラシック、バレエ、ポピュラー音楽、オペラに対応する音楽専用ホール。（ビククアイは音響が悪く使えない。）＜C＞
- ・メインホールは質の高い音楽性の高い多目的ホールで、2,000席規模とし、びわ湖ホールや兵庫県立芸文ホールの長所を参考にしながら、堺らしい施設とする。質が高いとは「優雅で品格があり、このステージに立つことがステータスになること。」＜A＞

(2) 多目的に使えるメインホール

- ・メインホールは多目的ホール。＜A, B＞
- ・多目的に使えるホール。＜D＞
- ・現在の市民会館はオペラはできないが、オペラも含めてひととおりの演目ができる多目的ホールという方向になる。＜B＞
- ・堺市にはオペラ、バレエ、オーケストラの団体が数多くある。オーケストラピットのあるホールにすれば、鑑賞型の世界や日本を代表する演目も誘致できる。＜C＞
- ・オペラ、バレエ、オーケストラなどの公演で、今の大阪では十分できない事業が可能なホール。＜C＞
- ・メインホール：音楽・演劇ができる2,000席程度の多目的ホール。＜A＞
- ・大ホール：1,500席。芸術の香り高いオーケストラやオペラ公演に対応するホール。＜C＞
- ・メインホールは2,000～2,500席の多目的施設。オーケストラ、バレエ、(音楽)ミュージカルに利用。＜D＞
- ・メインホール：1,500席以上の多目的ホール。＜A＞
- ・メインホール：3,500～5,000席程規模の多目的ホール。＜A＞
- ・オペラ、バレエ、クラシックコンサートもでき、和洋の舞台芸術も可能な、よそにはないような特殊な多目的ホール。＜C＞
- ・レニングラードバレエや海外オペラのような芸術性の高い舞台を誘致できるようなホール。(しかし動員力は要検討)＜C＞
- ・多目的ホールならNHKホールのような3,000席のものが最高。(仁徳陵が世界遺産になれば国際会議の会場にも広げられる。)＜D＞

- ・オペラ、クラシック他、演劇、歌舞伎もできる多目的型に。＜D＞

(3) メインホールに対するその他の意見

- ・馬蹄形の客席と4層程度のバルコニー席のある、格調高いホール。＜A＞
- ・座席数は現在の市民会館程度（1, 400）でよい。＜B＞
- ・地域で行われている団体の集合場所、発表の場として使いやすい機能がある施設。
＜C＞
- ・各区には700席、400～500席のホールがあるので、堺区には中核となるメインホールをつくる。＜C＞
- ・2, 500～3, 000席のホールとし、50～100年後の使用に耐えるような施設に。＜D＞
- ・いまの市民会館は演じにくい。＜B＞
- ・いまの市民会館は、席から舞台が見にくい。座席が硬い。＜B＞
- ・現市民会館の大ホールの舞台は、奈落など設備の使い勝手が悪い。利用者のニーズにあった設備が必要。＜D＞
- ・メインホールの事業はバレエを想定する。（オーケストラピット、舞台の奥行きが必要。）＜D＞
- ・メインホールでは大型公演ができるように。＜D＞
- ・歌舞伎が身近に見られるホール。＜A＞

3. メインホール以外の施設

(1) 音楽中心の中小ホール

- ・中ホールは音楽専用ホール。800～1000席。オペラ日舞にも対応。＜B＞
- ・小ホールは300席でピアノの発表会や室内楽などに対応するホール。＜C＞
- ・小ホール：クラシック音楽用。＜A＞

(2) 多目的型・その他の中小ホール

- ・中小ホールでは歌舞伎、能楽、コンサートなどの事業を。＜D＞
- ・200人収容規模の平土間スペース。（コンベンション、会議、パーティ、ミニコンサートなどの多用途に対応）＜C＞
- ・（SAYAKAホール地下にある）コンベンションホールのような多目的空間で、もう少し大きなものを。＜A＞
- ・1, 000席規模。古典芸能にも重きをおき、豊敷きの楽屋も必要。＜A＞
- ・中ホールは1, 000席以下で、古典芸能や若い人の発表の場となるように。＜A＞
- ・中ホールは800席で演劇対応ホール。（メインホールは1, 800席で音楽中心の多目的ホール。）＜C＞

- ・300席程度の舞台もある。映像発表用ホール。設備は映画館と同じような質・内容のものを。〈C〉

(3) その他の施設や設備

- ・200㎡以上のリハーサル室や大中小のリハ(練習)室のある市民創造の場とする。〈C〉
- ・練習用の機能やスペース。〈C〉
- ・鑑賞後、余韻を楽しめるロビー、ホワイエに。〈B〉
- ・付属設備：パイプオルガン。〈A〉
- ・搬入スペースの確保。〈D〉
- ・車イスでも座席に行けるように。〈D〉
- ・屋根に太陽光パネルを。〈B〉

4. 運 営

(1) 市民参加型の運営

- ・メインホールの事業は市民参加型に。〈B〉
- ・ホール運営の一部を住民参加型とする。〈A〉
- ・アートマネジメントを市民主体で行う。〈A〉
- ・運営は市民参加型を。現在の予約の取り方は問題多い。〈B〉
- ・使われ方は市民参加型に。〈D〉

(2) 管理運営のいろいろな工夫

- ・指定管理ではなく直営に。(指定管理は料金が高くなる) 〈C〉
- ・リハーサルにホールを使えるように。〈D〉
- ・堺市民の出演する場合の使用料は半額とする。〈D〉
- ・鑑賞型と参加型をうまく組み合わせた行事。(例：市民合唱団で「第9」を5年間やったような。) 〈D〉
- ・自主事業50%、買取事業50%。〈D〉
- ・音響、照明、道具制作、舞台装置などの設備を充実して利用率を高める。〈C〉
- ・他のホールにはないような高度な設備、音響のホールで、安く借りられるように。〈C〉
- ・利用者へのサービス、また施設の経営にプラスになるように、レストランとショップを設置する。〈A〉
- ・エントランスの動線上の敷地を活用し、フリースペースを設け、スペース貸しをして収入源とする。〈A〉
- ・ネーミングライツを活用。〈A〉
- ・スポンサー付きホール(兵庫県立芸術文化センターのネーミングライツのような) 〈D〉